

一般廃棄物の現状等について

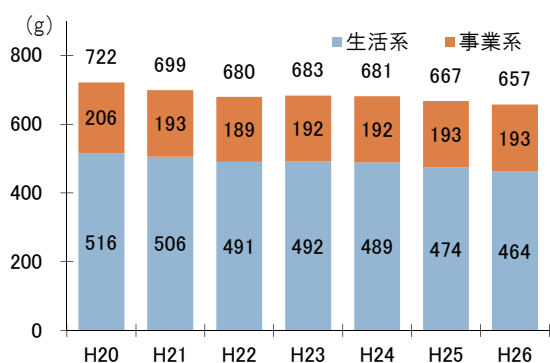
長野県環境部資源循環推進課

【データ等から】

- 一般廃棄物のうち、生活系ごみは減少傾向、事業系ごみはほぼ横ばい傾向
- 1人1日当たりのごみ排出量の少なさが日本一

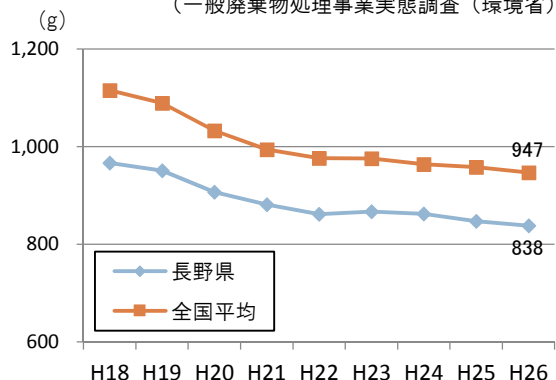
【一般廃棄物排出量の推移】

(一般廃棄物処理事業実態調査(環境省))



【1人1日当たりのごみ排出量の推移】

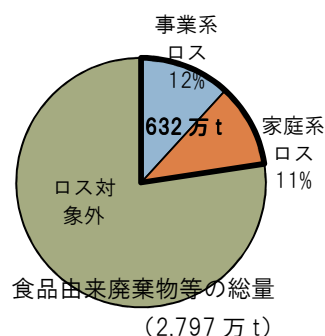
(一般廃棄物処理事業実態調査(環境省))



- 日本の食品ロスは年間632万トンと推計され、食品リサイクル法の趣旨である食品廃棄物の発生抑制、減量化の促進と「もったいない」という時代の要請への対応が必要

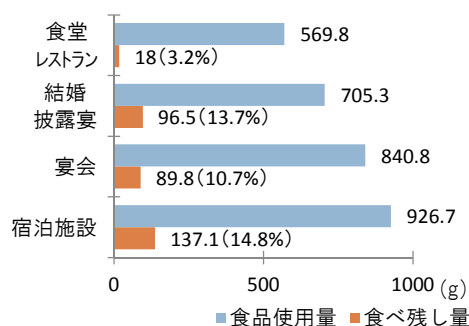
【食品ロスの状況】

(平成25年度農水省、環境省推計)



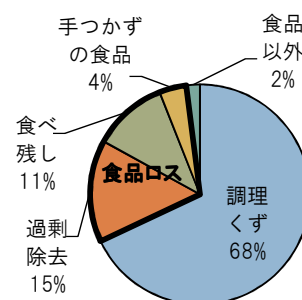
【1食当たりの食品使用量と食べ残し量の割合】

(平成21年食品ロス統計調査(外食産業調査) 農水省)



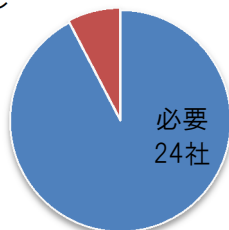
【家庭から出る生ごみの内訳】

(松本市公式HPから引用)

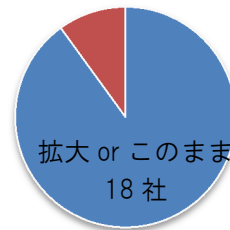


【事業者アンケート結果から】

- レジ袋削減について、引き続き協働することの必要性を感じている事業者は、全体の92%



- 今後、県に求める役割については、90%の事業者が、「拡大」もしくは「現状」を選択



- 食品ロスに関する意見やその他ごみ減量へのシフト等の意見も多数あり

(具体例)・食品ロス削減のために何かできることを
 ・簡易包装などへの考え方も更にアピール
 ・フードドライブ等新たな取組へのシフト
 ・食品リサイクルについて